

より良く生きる ―出居清太郎先生の世界― 第2回

山本博也

(1) 太い切り株はすぐには

死ぬほどひどい目にあわされたといううらみはちやうど太い切り株のようなものでありまして、取ればよいとわかっていても、根を張っていて掘り出すのは容易ではありません。二年三年とたてば根も枯れ、まわりの土も柔らかくなって掘り出せる時期が来るのです。それまで、いつか西瓜やメロンの実る時を楽しみに待つのです。これが「真捧」(辛抱)であります。

切り株を取り出してからと言わずに、春が来たら、やせた土地でもその土地なりに一番良い作物の種を蒔くのです。秋が来ればささやかでも収穫を市場に送り出してお役に立てる。そしてまた次の作物を作る。そして次第に地味豊かな畠になっていく。これが修養であり、生活なのであります。

(2) 明るい気持ちで辛抱する

握りこぶしのような固い、冷たい心で我慢するというのは行き詰まります。どのような環境にあっても、たなごころを開いたような明るい、あたたかい心で「真捧」(辛抱)するところに道が開けて

きます。

(出居清太郎先生の言葉から)

新型コロナウイルスの感染が広がるという状況が一年以上続いています。多くの方がたいへんなご苦労をされていますし、誰もが不自由な思いをされています。

しかしこの状況はいつまでも続くことはなくて、やがて終息するでしょう。

阪神・淡路大震災のあと、神戸の街は見事に復活しましたし、太平洋戦争のあとでさえ、日本社会は奇跡の復興を遂げました(東日本大震災からの復興はまだ途半ばですが)。

ただ、社会の復興・復活が成った時、私たち一人一人がどのような姿で社会に立っているかは、一人一人それぞれだろ

うと思われれます。

コロナ禍と言われる時代をどう生き
たかによつて、復興後の新しい社会で生
き生きと生活できるか、それとも、せつ
かくの新しい社会の恵みを享受できない
で、くすぶってしまったかの違いが出てく
るのではないでしょうか。

先生の切り株のたとえでいえば、切り
株のまわりの「やせた土地でもその土地
なりに一番良い作物の種を蒔く」という



カット 大西 恵

営みをしてきたかどうか。

また、切り株をうらむような「固い、冷たい心」でいたか、それとも、ささやかでもお役に立つことを喜ぶような「明るい、あたたかい心」でいたかどうか。そこが一人一人にとっての大きな分かれ目になるのではないだろうか。

(3) 厳しくても通れない道はない

いのちの親が作られた道はなるほど厳しい道だ。厳しいが、通れない道ではない。通れる道だからこそ通りなさいよと言われる。がけ道も坂道もデコボコ道も、われわれ子どもが通るためにつくられているのであって、どのような道も、いのちの親が連れて通ってくださるのである。この道を通ればそこに光がさしてくる。幸せがそこにおのずから生まれてくるの

であります。

(4) 取越し苦労はいらない

もう間もなく夏が来る。夏物を用意しておいてやらねばーと、親は夏の来るとも、暑くなれば涼しい肌着のいることもよく知っている。子どもは無関心であっても、親はすべてを知っているから、子どもの知らないうちに夏の用意をする。神は親である。ゆえに神は何事も知って、必要なものを神の子に用意してくださっている。取越し苦労はいらない。

(出居清太郎先生の言葉から)

筆者は、今現在生きています。この文章を目にしておられる皆様も生きておられます。皆誰もが、生まれてから今まで、一度も死ぬことなく生きてきました。

しかしその間には、“危機的”な状況を、どなたも一度ならず経験されているのではないでしようか。

「ヒヤツとしたその一瞬を忘れるな」という交通標語がありますが、私も田舎の道を歩いていた時、後ろからダンプカーが体すれすれに猛スピードで追い越して行ったことがあります。肝を冷やしました。

山で道に迷って危なかったとか、意識不明になって、運ばれた病院に、たまたま脳外科の医師が当直でいたので、すぐ手術してもらえて助かったとか、そういう話もよく聞きます。

直接命にかかわるようなことではなけれど、あの時、あの事がなかったら、今ごろどうなっていたかわからない、今

の自分はなかった…、と思われる出来事が誰にもいくつかはあるのではないでしようか。

あの時、Aさんがいてくれたから受験ができて今の仕事に就けた。あの時、「○○○」という文章に出合ったおかげで立ち直れた。あの時、なぜか「ごめんなさい」という言葉が口をついて出たので家庭崩壊に至らずにすんだ…などなど。

“危機的”な状況を救ってくれる人や言葉、また無意識の言動 それらがまさに天の配剤として準備されていた。だから私たちは今まで生きてくることができました。そしてこれからもきつと生きていくに違いありません。

発行所 〒170 0011 東京都豊島区池袋本町3 11 1

修養団捧誠会 TEL 03 3971 1493